


日本心理臨床学会 第41回大会 自主シンポジウム 020

アドラー心理学による コンサルテーションの現代的展開

アドラー心理学を基盤とした
コミュニティーアプローチとオープンダイアログ

浅井 健史 (明治大学) : 話題提供者
箕口 雅博 (立教大学) : 話題提供者
八巻 秀 (駒澤大学・SYプラクティス) :



2022年9月4日 (日) 10:00~12:00 企画者, 司会者, 話題提供者

最初に～ 話題提供者の自己紹介



浅井 健史 先生




箕口 雅博 先生




八巻 秀

本シンポジウムの企画趣旨



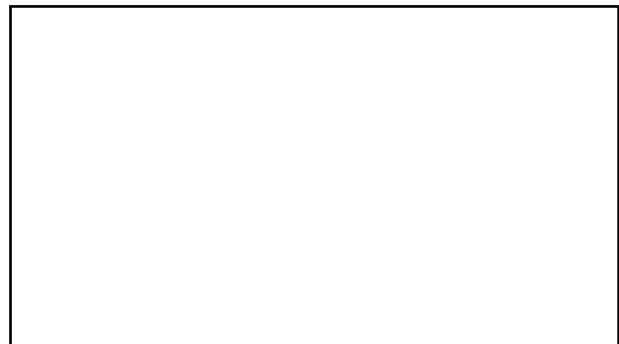
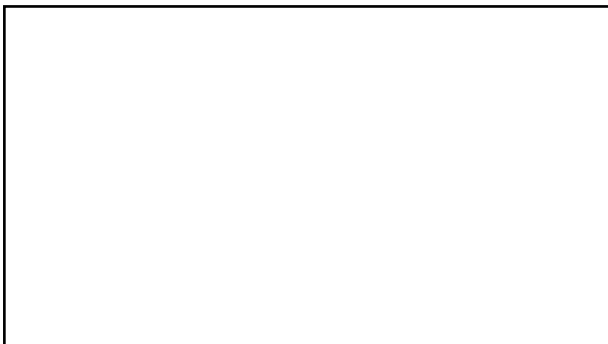
- アドラー心理学とコンサルテーションの関わりは古い。
- アルフレッド・アドラーは、軍医として参加した第一次世界大戦から帰還後、1920年代のオーストリア・ウィーンで、**児童相談所や教育研究所を設立**。そこで**親や教師への心理教育的なコンサルテーション**によって子どもを支援。
- アドラーの没後も、アドレリアンたちはコンサルテーションを用いた子どもへの支援を理論・実践の両面から発展させてきた。
- 日本においてアドラー心理学は、1980年代より導入されたが、研究者や専門家にはまだまだ少なく、臨床実践の専門書の出版もまだ少ない。
- 現代の様々な臨床現場で、**アドラー心理学に基づく思想・人間観・介入方法によってどのようにコンサルテーションを展開していくのか**、あらためて専門家同士で議論し合うことが本シンポの企画趣旨。

本シンポジウムのスケジュール



10:00～10:10 登壇者自己紹介+企画趣旨説明
～10:35 話題提供者① 浅井先生
～11:00 話題提供者② 箕口先生
～11:25 話題提供者③ 八巻
～12:00 話題提供者同士の討論
+参加者からのチャットに答える


この間、参加者からのチャットでの質問・意見・感想等を受け付けます。



日本心理臨床学会 第41回大会《自主シンポジウム》
アドラー心理学によるコンサルテーションの現代的展開


オープンダイアログによる アドレリアン・コンサルテーション

【話題提供】
八巻 秀
(駒澤大学・SYプラクティス)





本発表の流れ

- オープンダイアログ（OD）とは？
- A県総合教育センター「沿岸相談室」について
✓ B高校でのコンサルテーションの一例
- ODを行うセラピストの基本姿勢
- OD実践におけるアドラー心理学の「エンカレッジメント」と「共同体感覚」
- ODによるコンサルテーションを展開するために





オープンダイアログ（Open Dialogue）とは？

- フィンランド・西ラップランド地方のケロプダス病院で行われている精神疾患、特に**統合失調症者のケアの技法と臨床思想**。
- 1984年8月27日、患者を病棟などに閉じ込めるのではなく「**その人が話したいことを話す**」「**本人がいなくてその人のことを話したり、処遇を決定しない**」「**1対1ではなく複数で対話をする**」などという方針が決まり、それらの手法がのちに「**オープンダイアログ**」と呼ばれるようになった。
- 個人ではなく**治療チーム（Thチーム）**になって、危機的状況にあるクライアントの自宅に赴き、**対話ミーティング**を行う。危機が解消するまでクライアントや家族と毎日会いつづける。



オープンダイアログとは ②


- ケロプダス病院の**家族療法のトレーニングを受けたセラピストたち**によって実践。
- 困難に直面している家族のところへ、**対話の訓練を重ねている専門スタッフ**が**2名以上**で伺い、クライアントと一緒に話したいと思う人を交えて対話する。**参加者全員が対等な立場**で場に臨む。
- 約60分間の対話をするが、**結論を急がない**。結論がでなくても良い。ミーティングの場では、**ただ対話することだけが大切**にされる。
- 入院治療と薬物療法を可能な限り行わない。
- 1980年代から開発と実践が続けられていたが、フィンランドの片田舎の試みなので、これまで、ほとんど注目されてこなかったが、近年世界的に注目されるようになった。



J. セイックラ


様々な領域への オープンダイアログの展開

- 現在、ODは統合失調症のケアなどの医療領域での実践だけでなく、教育・司法・産業・福祉など様々な領域でのミーティングにおいて、「**ダイアログ・プラクティス**」として採用されている。
- 教育領域では、学校教育現場での生徒へのカウンセリングや、**教師へのコンサルテーション**などで、ODを使って臨床実践を行なわれている。
- 今回は、その一例をご紹介します。



A県総合教育センター 「沿岸相談室」について

- 2019年から始まったA県総合教育センターの活動。A県沿岸部の中学や高校を、センターの指導主事と筆者とのチームで年に数回訪問し、教師へのコンサルテーションや生徒へのカウンセリング、教員研修などを行っている。
- センター主事1～2名とチームになって訪問するというメリットを利用し、**ODの手法を使ったコンサルテーションやカウンセリング**を行っている。
- その結果として、いわゆる「**共同体感覚の育成**」をささやかながら行うことができたと思われるケースがいくつかみられた。
- では、**教員に対するODコンサルテーション**を行なった例を紹介。



リフレクティング・トーク (RT) とは

- ノルウェーの精神科医であるトム・アンデルセンによって提唱された家族療法の実践的手法。
- オープンダイアログで採用され、ODミーティングの途中、セラピスト (Th) チームのメンバー同士だけで、あるルールを守りながら話し合う手法。
- ミーティング途中で、チームメンバー同士が向き合って、それまでの話し合いを聞いての連想・感想・疑問などについて、コメントを述べあう時間を取る。
- 傾合いを見て、再び全体ミーティングの話し合いに戻す。その際にはRTの話し合いを聞いての「感想」をThが参加者に尋ねるところから始める。



RTにおける4つのルール

- ① **Here & Now** : その場で聞いた会話内容から連想・感想・疑問などを話す。
- ② **断定的な話し方は禁止**。自分の意見は**アイ・メッセージ**を使って話す。
- ③ 参加者同士で**否定的なコメントは禁止**。
- ④ チームのメンバー同士で向き合って話す。チーム以外のRTを聞いている人には**視線を向けない**。



RTを行う際の基本的イメージ

- ThがRTを行う時は、RTを行うメンバーの間にあるお盆の上に、感想やアイデア等が1つずつ載せられていくイメージ。
- RTの後、そのお盆が参加者 (RTの観察者) に差し出され、そこから、参加者が「この考え方はいいな」と思えたら、それを**自発的に選んでもらう**ことができる。
- RTするThは、お盆が溢れないようにする (RTを行う時間の調整、質問・疑問点だけが多くなるようにする、など) 配慮と工夫を行っていくこと。



事例の考察 : ODコンサルの効用

- 「訪問」という形のメリット
- SCなどでもよく言われるが「身近でない外部者」によるエンパワメントが短期的効果。
- リフレクティングRTの効用
- RTの時間を取ることによって「話す」と「聞く」が明確に分けられ、そのことにより、その後の対話が促進する。
- RTでの (ルールを守って行う) チームメンバー同士の会話は、自然とRTを聞いている観察者に対して「エンカレッジメント (=勇気を高める)」の会話になり、それがまるで自分の (良い意味での) うわさ話を聞いているようになる。



事例の考察② : OD実践によるエンカレッジメント

- 紹介した事例では、ODによるコンサルテーションによって、C教員とE教諭のチームが、今後の対応について「**エンカレッジメント**」された (=勇気づけられた) と思われる。
- 他にも「沿岸相談室」において、教員へのコンサルテーションでODを採用することにより、教員がエンカレッジメントされたというケースが多く見られた。
- ✓なぜ、ODコンサルテーションの実践で「エンカレッジメント」がなされるのだろうか？
- ここであらためて「ODにおけるセラピストの基本姿勢」と言われているものをご紹介します。



ODにおけるThの基本姿勢 ①

- 対話を生み出し展開させること自体を目的とする。それが治療における最も重要な側面と考える。
- ミーティングの目的が、**解決 (策) に至ることだとは考えない**、それを意図しない。
- 「治そう」「変化させよう」というセラピスト側の考えがかえって邪魔になる！ その考えは保留に。
- ミーティングに参加している全員が、**自分の声で話し・語り、それに耳を傾けることが重要**だと考える。セラピストはそのための配慮・工夫・サポートに努める。




「対話を続けていくこと」が、ODセラピストとしてできる最低限の配慮である！

ODにおけるThの基本姿勢 ②

- そういったプロセスから、対話の成り行き・結果として、何らかの解決（策）が生まれてくる・変化が起こり始めると考える。
- **変化・解決は、対話の結果・副産物！**

オープンダイアログは「治療や解決を目的としない、ほぼ唯一の手法」である。

✓ このようなOD実践によって、結果的に参加したメンバーがエンカレッジメントされ、さらに変化や解決が生じるのはなぜか？

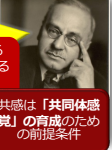


ODの基本的な臨床思想

- **コミュニケーションが成立**（他者に関心を持つようになる＝モノログからダイアログに変容）**すれば、人は社会化される。**
- **ダイアログ（対話）は健常。モノログ（独り言）は病的。**
- ODの対話実践を予言するような **アドラーの言葉は～**


結局のところ、我々には、対人関係の問題以外の問題はないように思える。
その問題は、人が他者の関心に関心を
持っている時に限って、解決可能なのである。

アドラーによる対人関係における**共感**の定義
共感とは「共同体感覚」の育成のための前提条件



OD実践によって起こっていること

- ODにおいて「対話を続けること」に専念するThの姿勢によって、参加メンバーがエンカレッジメントされ、その結果として（副産物として）変化や解決が起こっていると考えられる。
- ODの「対話を創り、それを続けていく」という発想と手法にThが徹して行っていくこと+RTを行うことで、Thがその場やメンバーをエンカレッジしていることになり、そのことがODミーティングやODコンサルテーションにおいて、自然な「**共同体感覚の育成**」を可能にさせているのではないか。




共同体感覚とエンカレッジメント

- **共同体感覚**は「水平的思想を持ちながら、水平的関わりを行っていく姿勢や態度」
- **エンカレッジメント**（＝勇気づけ）は「勇気を高めるような水平的な関わり方」

思想 姿勢・態度 関わり方

共同体感覚 エンカレッジメント


ODの水平的関係の構築は、Thのエンカレッジメントの関わり方と共同体感覚の思想がポイントとなる！



アドラーによる「共同体感覚」について ～その定義の確認

われわれのまわりには他者がいる。そしてわれわれは他者と結びついて生きている。人間は、個人としては弱く限界があるので、一人では自分の目標を達成することはできない。もしも一人で生き、問題に一人で対処しようとするれば、滅びてしまうだろう。自分自身の生を続けることもできないし、人類の生も続けることはできないだろう。そこで人は、弱さ、欠点、限界のために、いつも他者と結びついているのである。自分自身の幸福と人類の幸福のためにもっとも貢献するのは、共同体感覚である。

(Adler, 1931)



ODを行うThの基本姿勢として役立つもの



- アドラーによる共同体感覚の姿勢についての言葉。

相手の目で見て、相手の耳で聞いて、相手の心で感じること


- アドラーの弟子であるアンスパッハーによる共同体感覚の姿勢は～

共同体感覚は、「単に他者に関心を持つこと」ではなく、「**他者の関心に関心を持つこと**」

その人の関心は、その人の話す言葉・語りに現れる。そこに関心を示すことが**共同体感覚の姿勢の基本！**


オープンダイアローグは「共同体感覚の育成」の現代的手法



- ODの実践の背景に、アドラー心理学の思想である「**共同体感覚の育成**」の現代的意義と手法（＝理論と技法）を見いだすことができる。
- 現代のODの実践は、自然にアドラー心理学における最終目標である「**共同体感覚の育成**」を行われているのではないか。


アドラー心理学の共同体感覚という思想からくる姿勢とODの対話実践がつながることで、より豊かなOD実践が可能になる？！

オープンダイアローグによるコンサルテーションを展開していくために




- オープンダイアローグは、治療的意義だけに留まらない「**共同体感覚を相互に育成するミーティング**」になりうる。
- ODコンサルテーション（あるいはODミーティング）を実施していくことは、**共同体感覚の育成が起こりうる手段・手法**として、教育領域も含めて、様々な分野・領域で大いに展開可能。
- OD実践には、Thによる「リフレクティング」などの技法の習得が必要であるが、加えてODを行う**セラピスト側の共同体感覚を育成していくこと**（＝アドラー心理学の学びをしていくこと）も、ODによるアドレリアン・コンサルテーションの実践のために重要ではないか。

以上で私の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。ございました。




最後に少し宣伝を～

「日本個人心理学会」に入会しませんか？




- アドラー心理学を研究する学術団体です。
- 2022年10月9日に会員の集い、10月29日に研修会、2023年3月4日～5日に第2回の学術大会（いずれも東洋学園大学：東京都千代田区）を行う予定です。
- ぜひ、ご参加ください！
- 詳しくは、学会HPをご覧ください。



2019年3月の設立総会の様子

今日のシンポジウムの感想を以下のメールにいただくと、励みになります！

yamaki@komazawa-u.ac.jp



- ✓ お時間がありましたら、どうぞよろしく申し上げます。
- ✓ チャットの資料が届かない場合も、こちらにお問合せください。